令和8年度　環境水道委員会行政視察　事前勉強会資料

①8/5(水)午後　【和田弥生幹線(和田ポンプ施設)】

視察項目	浸水対策施設の整備等について
視察項目の概要	本市では、令和7年8月豪雨により中心市街地を含む都市部の広範囲で浸水被害が発生し、流域治水視点での内水対策などの取り組みが急務である。そこで、今後の取り組みを検討するにあたり、すでに供用を開始し大きな効果を発揮している同施設を視察するもの。 本施設は、東京都中野区周辺の道路地下に埋設された雨水貯留管であり、大雨時に降った雨水を一時的に貯留することで、浸水被害の軽減を図るものである。本格運用を開始した平成19年以降、大きな浸水被害は発生しておらず、浸水対策に大きく寄与している。

視察項目に関する本市の現状・課題	令和7年8月豪雨で設置された検証委員会では、浸水原因として既存施設の能力不足や河川による背水の影響等が指摘され、現在進めているソフト対策に加え、流域治水の視点にたった雨水を貯める施設等の整備など、ハード対策の必要性が提言された。 提言がなされた対策区域は中心市街地を含む店舗や住宅が密集した場所であることから、施設の種類、施工方法および供用後の維持管理など多角的な視点で検討を進める必要があり、現在、情報収集等を行っている。
視察のポイント	本施設が整備された地域は住宅密集地であることや合流式下水道の区域であることなど、本市が対策を必要としている中心市街地を含む区域と条件が類似している。 本視察では、同施設の以下の取り組みについて参考とするもの。 〇流域治水における河川整備との協同

	○大規模かつ長期間に及ぶ工事の地元住民との合意形成手法 ○建物が密集した地域での施工方法、安全対策および建物調査等 ○合流式下水道における雨水の貯留施設への取り込み方 ○運用開始後の点検、清掃等の維持管理方法

令和8年度　環境水道委員会行政視察　事前勉強会資料

②8/6(木)午後　【各務原市】

視察項目	環境中及び水道水源の有機フッ素化合物対策について
視察項目の概要	各務原市では水道水源から暫定目標値(当時)を超える PFOS・PFOA(以下「PFAS」という。)が検出されたことを受け、環境中の PFAS に関する今後の方向性等を検討するため、県市で「各務原市における PFOS/PFOA に関する専門家会議」を設置し、原因究明に向けて調査を行っている。 また、令和5年度に水道水源の暫定目標値を達成するための応急的な対策として活性炭による浄化システムを導入し、更に、PFAS の水質基準への格上げ等を踏まえ、更なる水質改善対策として、水道水源では全国初となるイオン交換樹脂を用いた除去設備の導入を予定している。 ※1活性炭による浄化システム 炭を特殊加工した「活性炭」の優れた吸着作用を利用し、PFAS を除去する環境技術 ※2イオン交換樹脂による除去設備 水中の PFAS を樹脂の化学反応によって吸着・除去する水処理システム

視察項目に関する本市の現状・課題	本市では、主に植木地区周辺の地下水や河川で PFAS の指針値超過が確認されており、「熊本市有機フッ素化合物対策検討委員会」を設置し、原因究明に向けた調査を行っているが、原因の1つとして埋立処分場の放流水は確認されたものの、全域的な原因の特定には至っていない。 なお、市内の埋立処分場が環境省の「PFAS 等の濃度低減のための対策技術に関する実証事業」の事業地として選定されており、イオン交換樹脂を用いた PFAS 除去の処理実証を進めている。 本市としては、引き続き原因究明調査を継続するとともに、今後の対応の方向性を検討していく必要がある。
視察のポイント	水道水源の全てを地下水で賄う各務原市の PFAS への対応は、本市の今後の取組において参考となることから、以下の点を中心に視察するもの。 ○ 各務原市における環境中の PFAS の調査や対策の今後の対応について ※令和3年より PFAS の地下水調査を実施、原因究明中 ○活性炭による浄化システムについて ※令和5年度に PFAS を指針値以下とするため水源地内に設置 ○イオン交換樹脂による除去設備の導入について ※令和 8 年度に工事着手、令和 9 年 3 月までに運用開始予定